

# キイチゴ「ベビーハンズ」の改植

～キイチゴ「ベビーハンズ」の改植は定植後4年目を目処に行う～

## 背景・目的

- 宮崎県において、2013年度よりキイチゴ「ベビーハンズ」の栽培が始まりました。
- 現地では、定植から数年経過すると樹勢が落ち、収量の減少がみられます。
- 長期の安定生産を目的に収穫本数を確保できる年数を調査し、改植の目安を検討しました。

## 成果の内容

- 定植2年目(2015年)及び定植3年目(2016年)は、10月以降の秋にも収穫できますが、4年目は初夏以降樹勢が落ち、10月以降は収穫できません(図1)。
- 1㎡あたり40cm以上の切り枝の年間収穫本数は、定植1年目は約20本、定植2年目は約100本、定植3年目は約70本、定植4年目は約60本ですが、定植5年目は約25本と大きく減少します(図1)。

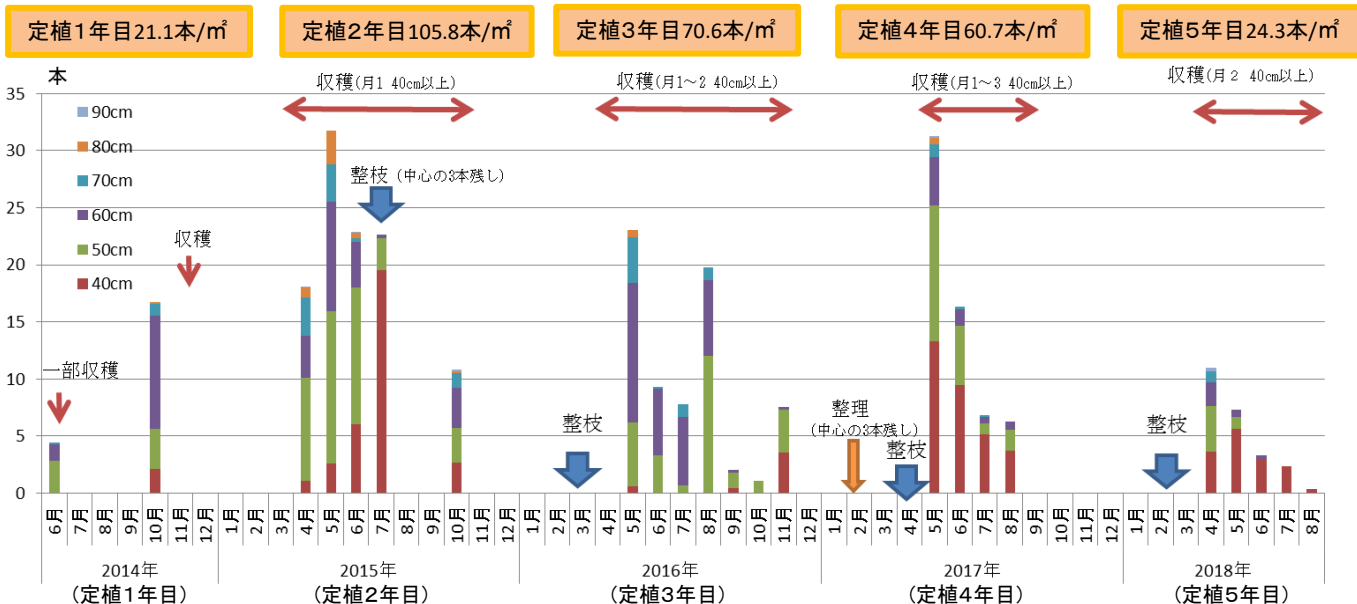


図1:キイチゴ「ベビーハンズ」の定植後5年間の1㎡あたりの収穫本数(n=3~10)

## 成果の活用方法(又は期待される効果)

- 年間収穫本数の推移が明らかとなり、改植の年数が検討でき、計画的な栽培が期待できます。
- 早めの改植により、樹勢低下による減収を回避でき、安定的な収量が期待されます。
- 普及対象地域・面積 県内のベビーハンズ生産地域

## 留意点

- 亜熱帯作物支場(日南市)での試験結果です。
- 2013年10月に株間1m×条間1.5mで定植し、定植1年目～4年目は無施肥で管理し、定植5年目は2017年12月に苦土入りオール8を窒素5kg/10a施肥した定植1年目～5年目の調査結果です。
- 樹勢維持のために残す枝は、樹高が高くなり側枝が発生しやすいので、側枝の剪定を行い、風通しをよくし、下から萌芽する新芽の蒸し込みや病害虫を防ぐように管理します。
- 夏季に整枝や多収穫を行うと、その後の収量が少なくなるので注意します。
- 定期的に収穫することが大切で、月2回程収穫し、収穫場所をずらしながら一度に収穫することを避けず。 関連研究成果カード：平成30年後期 番号34、関連事業名：宮崎の気候を活かした露地花き・花木の栽培技術の確立(県単) 研究期間：平成26年～30年